

## 当院における IVUS の解析 (Online 解析を含む)

藤田 光広

川崎社会保険病院.検査部.生理

【はじめに】経皮的冠動脈拡張術 (PTCA) において血管内超音波 (IVUS) は欠かせない検査法である。冠動脈を直接的に観察、病変の性状を評価しバルーン及びニューデバイスの選択等に使用されるようになった。また、PTCA 後の拡張、解離等の評価にも用いられ IVUS の必要性は高まる一方である。今回、我々は当院における IVUS の解析における現状を述べる。

【方法】IVUS の準備は臨床検査技師と医師で行っている。IVUS カテーテルとプルバックのセットは医師、臨床検査技師で、IVUS の操作は臨床検査技師一人で行っている。IVUS の画像は6台天井ずりのモニターに冠動脈血管横断面と冠動脈血管縦断面を描出し医師と共に冠動脈病変の解析を Online で行っている。使用している IVUS 装置は Boston Scientific 社製、解析装置は NETRA IVUS SYSTEM、3D Scilimage 社製を用いて解析をした。

IVUS カテーテルはモノレールタイプ (Atlantis Plus 周波数は 40MHz) を使用した。

【解析】当院の IVUS の解析は基本的に Auto Pull Back 法 (1.0mm / sec) を用い次の項目について解析を行っている。病変の血管径、内腔径、病変長、Pluqe の性状及び量、石灰化有無と局在性、PTCA 後の拡張の評価、冠動脈病変の解離等を Online で解析を行っている。当院では 2000 年 6 月より prospective IVUS guided stenting 施行し検討を行っている。ほとんどの例で IVUS を用いたことで direct stenting が可能であり手技成功率は 100% であった。85.1% の症例で end point に達成し現在までの慢性期再狭窄率は 10.2% と良好であった。

【まとめ】冠インターベンションにおいて IVUS の情報をもとに治療することは治療法の選択、治療時のデバイスのサイズ、end point の評価、合併症の確認に有効で IVUS による解析、特に Online 解析は有効であると示唆された。